
僕の手紙が君にとどく日...

嘉藤空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の手紙が君にとどく日…

【Nコード】

N4376I

【作者名】

嘉藤空

【あらすじ】

主人公の双空大地^{すおうたいち}、そして幼馴染の鳥海美羽^{とりうみみづ}。

幼いころからいつでも一緒にいた2人は別々の高校、別々の大学へと進むことを決める。

別れの日、大地は美羽に最初で最後の告白をする。

それは未来^{あした}のない告白だった…。

オープニングく別れ

3月12日。

中学校生活最後の日。

僕は美羽^{みう}に手紙を書いた。

あの頃の僕はクールを気取っていたのかもしれない、ただ恥ずかしかっただけかもしれない。

口にできなかったから手紙に書いた。

卒業式が終わったそのとき、僕は美羽を屋上に呼び、そこで手紙を渡した。

その手紙が本当に渡して良かったものなのか、あとにも先にも僕は言葉を発さなかった。

手紙を渡されて戸惑っていた美羽も、何も言わず、たった一枚、たった数行で書かれただけの手紙をゆっくりと読んでくれた。

手紙の最後にはこう書いた。

「また逢う日、もう一度好きになったら付き合ってください。」と。

美羽にはこの言葉の意味がわからなかったかもしれない。いや、わからなかったと思う。

だからだろう、手紙を渡した後、背を向けて去っていく僕をいつも小走りで追いかける美羽の音はなかった。

僕は自分に未来があるかなんてわからなかった、だから、そう手紙で書くしかなかったんだと思う。

オープニング／別れ／（後書き）

はじめての投稿です。基本的には主人公タイチの一人称視点でいき
たいと思います。

この作品はやわらかく、やさしい雰囲気のものにしていきたいと思
います。そして最後には泣けるものに…。

b y 嘉藤

空

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4376i/>

僕の手紙が君にとどく日...

2010年10月12日00時44分発行